

（午後1時15分 再開）

○議長（小林 弘君）休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番10、2番 垣内君。

〔2番（垣内憲一君）登壇〕

○2番（垣内憲一君）議長のお許しを頂きましたので、一般質問をさせていただきます。

今回は3項目。

1、学校給食の現状について。

学校給食は子どもたちの心身の健全な発達に資するものであり、適切な栄養の摂取による健康の保持増進を図るだけではなく、家庭では味わえないような様々な材料をバランスよく食す機会である。

学校給食という教育の場を通じ、橋本市で生産される食材を食べ、地域の生産物の理解を行うことは、子どもたちが郷土愛を育む上で最も重要です。また、学校給食として食材を供給できる体制を構築することで守ることができる橋本市の産業、橋本市特有の農村風景もあると信じます。

そこで、お聞きします。

1、コロナ、ウクライナ危機による物価高騰等、現在の食材費の現状について。

2、学校給食における市内産品の利用状況について。

3、橋本市産の鶏卵を学校給食で利用するための仕組みづくりについて。

2項目め、米のブランド化について。

橋本市ではJAがブランド化を行い、恋野米として販売されていますが、同じ隅田地区でも山内、平野といった地区は水の美しい棚田が広がっていますが、非常に低価格での買取りとなっております。前述の物価上昇によ

り肥料、諸資材が高騰する中で、農家が困窮しております。米のブランド化による販路確保についてお聞きします。

3項目めが、オーガニック給食への挑戦について。

先般、泉大津市との農業連携協定が締結されたとのことですが、その中で有機農法の実現に向けた調査・研究に取り組んでいくとあります。泉大津市はオーガニック給食の実施に向けて調査・研究をしております。

国の指針でも、今後、有機農法の実践は行っていくべきとされていますが、例えば12月8日の有機農法の日を機会として、一品からでもいいので、有機農法で作られた農作物の提供に取り組んでいただけないでしょうか。

以上、壇上からの質問は終わらせていただきます。

○議長（小林 弘君）2番、垣内君の質問項目1、学校給食の状況に対する答弁を求めます。

教育部長。

〔教育部長（堀畑明秀君）登壇〕

○教育部長（堀畑明秀君）学校給食の状況についてお答えします。

まず、一点目の、コロナ、ウクライナ危機による物価高騰等、現在の食材費の状況についてですが、昨年度と比較しほとんどの食材が高騰しており、品目としては、コロケやハンバーグなどの加工食品、野菜類、調味料などであり、この食材費の高騰に対し、既に6月定例会で、国の交付金を活用した給食材料費高騰対策事業予算1,894万3,000円を承認いただきました。

この補正対応により、一人一食当たり20円

の食材費の増額を公費で負担することにより、保護者への追加負担が生じることなく、文部科学省が示す学校給食摂取基準の栄養価を維持した給食を提供しています。

次に、二点目の、学校給食における市内産品の利用状況についてですが、給食センターでも地産地消は子どもたちの食育の面でも重要であると考え、積極的に使用しており、品目では味噌や醤油の調味料以外に野菜、果物類が多く、野菜については、学校給食センターで使用する野菜全体の約4割が市内産となります。

次に、三点目の、橋本市産の鶏卵を学校給食で利用するための仕組みづくりについてですが、本市の特産品でもある鶏卵を使用することは児童生徒の郷土愛を育むものであると考えていますが、現在、学校給食センターでは、殻つきの鶏卵は調理時間等の関係から全く使用していません。また、市内の鶏卵業者から学校給食センターへの納入業者登録がされていないのが現状です。

学校給食で取り扱う食材については、鶏卵に限らず、まず納入業者登録をしていただき、食材ごとに調達するための基準に合わせて納入していただく形を取っておりますので、ご理解をお願いします。

○議長（小林 弘君）2番 垣内君、再質問ありますか。

2番 垣内君。

○2番（垣内憲一君）ありがとうございます。

過去、同僚議員から、本市の地産地消促進計画として位置づけられている食育推進計画において具体的な数値目標が備わっていたことが指摘されましたけども、野菜全体の約4割が市内産とのことですが、SDGs等の観点から、今後の目標値について議論されたことはございますでしょうか。

○議長（小林 弘君）教育部長。

○教育部長（堀畑明秀君）特に議論は行っておりませんが、給食センターでは地産地消の推進を目的として、学校給食における地場産品を使用する県内産の目標値を今年度は40%と設定しておるところでございます。

○議長（小林 弘君）2番 垣内君。

○2番（垣内憲一君）ありがとうございます。

議論されていないということなんですけども、地場産品を、県内産の目標値を今年度は40%に設定するということなので、最低限この目標を達成できるように頑張ってくださいんですけども、次に、市民病院や認定こども園等での橋本市産の鶏卵の利用状況について教えていただけますでしょうか。

○議長（小林 弘君）病院事務局長。

○病院事務局長（池之内正行君）ただ今のおただしにお答えさせていただきます。

橋本市民病院では、サルモネラ菌対策ということで、食品衛生法上にあります国際基準HACCPに基づきましてセーフティ卵のほうを使用させていただいておりますので、現状、地元産の卵のほうは使用させていただいておりません。

○議長（小林 弘君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（久保雅裕君）市内の認定こども園と保育園では現在、市内の4分の1ということで、幼稚園を除く16園のうちの四つの園で橋本市産の鶏卵を使用しています。

○議長（小林 弘君）2番 垣内君。

○2番（垣内憲一君）答弁にあったように、市内の養鶏場が納入業者登録をすれば、橋本市産の卵を学校給食で利用することが可能なのでしょうか。

また、再確認します。そもそも学校給食において、現在、卵を利用したメニュー等がございますでしょうか。

○議長（小林 弘君）教育部長。

○教育部長（堀畑明秀君）まず、納入業者登

録をしていただき、食材ごとに調達するための基準がありますので、卵で言いますと、使用量定量ごとに液卵として小分けしていただき、温度管理などの衛生管理基準に沿って納入していただく必要があります。

また、次に、卵を利用したメニューでは、既に加工品として使用しているものを除き、かき玉汁、丼類などがあります。

○議長（小林 弘君）2番 垣内君。

○2番（垣内憲一君）ありがとうございます。

何で今回、橋本市産の卵のことについて質問させてもらっているかという、ほかの議員も質問されていたと思うんですけども、やはりいろんなものが値上がりしている。鶏業者のほうも1t当たり今まで2万円から3万円で買えとったやつがプラス3万円、だから、5万円から6万円になつるとということで、ほんでもう非常に厳しいと、そういうお話を聞かせてもらう中で、そういう恐怖心というのは誰も味わってはないと思うんですけど、僕はそういう経験をさせてもらっているので、ちょっとでも橋本市の、市でどないか協力できることがないかなと思って質問させていただきました。

学校給食の現状についてはよく分かったんですけども、和歌山県教育委員会の「紀州っ子の食育の手引」というのに、食事の重要性、心身の健康、食品を選択する能力、感謝の心、社会性、食文化、それぞれの目標に位置づけられることが望ましいと書かれていて、給食の中での学びがたくさんあると思います。

食育というのは僕は教育やと思っているんですけども、給食の食材がどこでどのように、どんな思いで作られているか、橋本市の学校給食の食材が橋本市で収穫した食材であれば子どもたちも興味を持ち、また、それぞれの労力を知ることになり、今以上に感謝の心で給食を頂けると思います。

そこで、教育委員会がもっと前に出て食育に取り組んでいただきたいということを要望して、一つ目の質問は終わらせていただきます。

○議長（小林 弘君）次に、質問項目2、米のブランド化に対する答弁を求めます。

経済推進部長。

〔経済推進部長（北岡慶久君）登壇〕

○経済推進部長（北岡慶久君）米のブランド化についてお答えします。

本市では、高齢化や米の販売価格が低迷していることなどから、稲作をやめる農家が増え、休耕地が目立ってきています。

橋本市産米のふるさと納税返礼品の登録や米の販路確保を検討していたところ、本市が市町村広域災害ネットワーク協定を提携している泉大津市から、学校給食用の米を中心とした農産物の供給体制構築について連携依頼がありました。

令和3年度には、休耕田を活用した水田で棚田米を生産し、泉大津市の中学校給食用に販売する取組を始めました。令和4年度はその棚田米に加え、有機農業などの環境型農業に取り組むことで県の認定を受けたエコファーマーの米を小学校給食用として販売することとなっています。

今後も引き続き、供給量を増やしていくことなども協議し、より多くの棚田米作りを推進していきます。また、JAと協議を進めながら、隅田地域や他の中山間地の棚田米を確保し、平地部分であっても、有機の土づくりと農薬使用回数を抑えた米であれば使用したいというニーズがありますので、付加価値を高めることで、泉大津市をモデルに販売先を確保し、橋本産米のブランド化につなげたいと考えています。

○議長（小林 弘君）2番 垣内君、再質問ありますか。

2番 垣内君。

○2番(垣内憲一君)ありがとうございます。

米の買取り価格が、例年なんですけども、大幅に低下していると聞いています。ここ数年どのような状況か教えていただきたいのと、その原因はどうなっているか、ちょっと教えていただきたいです。

○議長(小林 弘君) 経済推進部長。

○経済推進部長(北岡慶久君) 米の買取り価格についてですが、新型コロナウイルス感染症によって外食産業等の米の消費が大幅に減少したことによって、米が余っているという状態が生じています。令和3年度ではJAの買取り価格が大幅に低下して、1等米であっても60kg 1万2,000円台となっており、今年度も同じ水準となる見込みです。

○議長(小林 弘君) 2番 垣内君。

○2番(垣内憲一君)ありがとうございます。

お米も、さっきもお話しさせてもろたみたいに、かなり資材のほうも上がってきて、ほんまに農家も大変やと思うんですけども、ほんで今回、泉大津市と仲よくさせてもらったと言ったらあれですけども、泉大津市の学校給食への米の提供が実現しましたが、具体的な数字や取組について教えていただけませんかでしょうか。

○議長(小林 弘君) 経済推進部長。

○経済推進部長(北岡慶久君) 学校給食用のお米を中心とした農産物の供給体制構築について連携依頼がありました。本市柱本地区の皆さんのご協力を頂きながら、令和3年度には休耕田をよみがえらせた水田で棚田米を生産し、12俵、720kgを泉大津市の中学校給食用に販売する取組を始めました。

納入時には柱本地区の皆さんにオンラインで、先ほど議員がおただしのあったような食育という観点で、どんな思いでこの米を作っているのか、どんな環境でこの米を作ってい

るのか、地域の農業の現状であるとかそういったことを学生たちにお話しさせていただいて、学生からはアンケートも取らせてもらった中で、非常に前向きな感想を頂いたところです。

今年度におきましては、中学校給食で1,440kg、それから小学校給食用に、壇上でご説明させていただいた隅田地域のエコファーマーの米1,000kg程度を納入することを予定しています。

○議長(小林 弘君) 2番 垣内君。

○2番(垣内憲一君)ありがとうございます。個人的な思いで言えば、泉大津市で使っただけののありがたいんですけども、これも橋本市の学校でも使っただけたらと思います。

米の付加価値を高めることについて答弁がありました。もう少し具体的に、どうしたいのか教えていただけますでしょうか。

○議長(小林 弘君) 経済推進部長。

○経済推進部長(北岡慶久君) 本市では中山間地域というのが多く、耕作効率で劣ります。北海道や新潟の産地米に対峙するというのは本当に難しい状況であるというふうには考えています。

しかしながら、豊富な天然のミネラルを含む山水に恵まれた棚田は、農薬や肥料が少なくとも食味の高い米ができるメリットがあります。さらに本市では、柱本地区での保全活動をモデルとして都市農村交流や学校給食で使われていることなどをPRすることで、棚田米の認知度及び付加価値を上げたいというふうに考えています。

○議長(小林 弘君) 2番 垣内君。

○2番(垣内憲一君) 分かりました。橋本産米のブランド化について、今後の戦略をもう少し具体的に教えていただき、決意を示してください。

○議長（小林 弘君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）一般的な供出による買取り価格の低下傾向はしばらく継続するというふうに見られます。経営が本当に大変だというふうに思います。

本市では高野山麓精進野菜のように有機の土づくりを進めていますが、農薬と化学肥料を減らした米についてはニーズが非常に高くなっています。消費者に情報を出していくことによって差別化が必要となりますが、買っていただける方に農家の顔の見える顧客をつなぐことが必要で、泉大津市との連携や、また、今現在取り組んでおります橋本ふるさと便やインターネット販売を通じて本市のファンをつくり、相乗的に付加価値を高め、安心安全の米の産地をめざしたいというふうに考えています。

○議長（小林 弘君）2番 垣内君。

○2番（垣内憲一君）ありがとうございます。顔の見える顧客づくりというのは、これ今の時代にちょうどぴったり合っていると思いますので、僕も賛成です。

ふるさと納税で米の登録とかはございますでしょうか。

○議長（小林 弘君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）本市では米の登録というのがなかなかできておりませんが、令和3年の秋から二つの事業者に登録をさせていただいているところです。

○議長（小林 弘君）2番 垣内君。

○2番（垣内憲一君）ありがとうございます。

そうしたら、寄附の受入れ実績はどうなっていますでしょうか。

○議長（小林 弘君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）二つの事業者合計で、昨年度実績ですと37万円の寄附を受けています。寄附額1万円に対して米10kg、寄附額1万円に対して米5kg、寄附額3万円

に対して米15kgと、農家の方がいろいろ検討されている状況です。

○議長（小林 弘君）2番 垣内君。

○2番（垣内憲一君）分かりました。ありがとうございます。

今現状で2業者ということなんですけども、米の登録を今後拡充する考えはございますでしょうか。

○議長（小林 弘君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）米の拡充については、米を取り扱っている業者、それから、農家の方にも随時登録のお願いをさせていただいているところです。現在、拡充をしたいというふうに意思表示されているところが1者ございますので、できるだけ早い段階でふるさと納税返礼品の登録をしたいというふうに考えています。

○議長（小林 弘君）2番 垣内君。

○2番（垣内憲一君）ありがとうございます。

今後、付加価値をつけたお米をDMOなどで積極的に売り出すとか、そういうお考えはございますでしょうか。

○議長（小林 弘君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）高野山麓ツーリズムビューロー、DMOについてですが、今現在販売している主なものとして、ブドウ各種、桃、シイタケ等があります。

ふるさと納税返礼品の登録をDMOとして事業者登録もさせていただいているんですが、DMOが米を扱うということについて何がメリットかといいますと、農家の方が高齢等になかなかふるさと納税返礼品等に登録しづらいと、そういったお手伝いをするということにメリットがありますので、DMOからお米の販売等については、そういった調整をしながら販売できるようにしたいというふうに思います。

○議長（小林 弘君）2番 垣内君。

○2番(垣内憲一君)ありがとうございます。
そらもうお年寄りからしたら、そういう手伝っていただけるということは本当にありがたいことだと思いますので、ぜひとも協力していただいて、今後進めていっていただきたいと思います。

米のブランド化についての橋本市の取組は分かりました。今回質問させていただいた隅田地区以外ではありますが、私の地元、紀見地区でも、山からの冷たい水を利用した、おいしいお米ができる水田があります。杉尾地区の古代米も大変おいしいお米でございます。

残念なことに、高齢化で、後継者もいるのに、作るより買ったほうが安いなどの原因で休耕地が増えてきます。しかし、橋本市でも農業をしたいと思っている若者が増えているのも事実です。そういった若者にも夢を与えるような販路を橋本市として取り組んでいただきたいと思います。

昨日もほかの議員からも提案があったんですけども、先ほど部長もおっしゃってくれた顔の見える販売というんですか、やっぱりそなんして農家が一生懸命作ってくれていることを取材させていただいて、フェイスブック、SNS等、また、ホームページで、僕はもう希望としたらもう毎日、毎日そういう農家、畜産業、ほかにも飲食店とか工場などもあるんやけども、そういう人らが毎日どういうことをやっているかというのを、橋本市いうのはこんなことあるし、みんなこういうことでやって頑張っていますよというのを毎日フェイスブックで上げていただけたら、日本中の人がどこかで見てくれていると思いますので、よろしくお願いします。それを要望して、二つ目の質問は終わらせていただきます。

○議長(小林 弘君)次に、質問項目3、オーガニック給食への挑戦に対する答弁を求めます。

経済推進部長。

〔経済推進部長(北岡慶久君)登壇〕

○経済推進部長(北岡慶久君)オーガニック給食への挑戦についてお答えします。

令和4年8月19日に泉大津市と持続可能な農業の推進と安定的な食料の供給確保に向けた連携に関する協定を締結しました。この協定では、給食米等の供給・購入のほか、農薬、化学肥料等の使用を抑制した安全な農業の推進、有機栽培による農業の実現に向けた調査・研究、農産物生産者の事業継続に関することなど、持続可能な農業の実現を共にめざすこととしています。

また、泉大津市ではオーガニック給食の実現をめざしており、本市も農業連携により、有機農法の米や化成肥料の使用と農薬の使用回数を抑えた高野山麓精進野菜など、安心安全の食材の提供を行うよう進めているところです。

国は昨年、みどりの食料システム戦略を定め、2050年を目標に、化学農薬、化学肥料削減や有機農業の実現をめざすことを方針として打ち出しました。

本市の学校給食は一日当たり約4,500食を調理しており、オーガニック給食の実現は、食材費の増加や必要量の有機食材を確保できるかなどの課題があり、現時点では難しいところですが、有機農業グループなどの生産農家や関係部局、学校給食センターなどと引き続き協議を行います。

○議長(小林 弘君)2番 垣内君、再質問ありますか。

2番 垣内君。

○2番(垣内憲一君)ありがとうございます。

先ほど言っていたみどりの食料システム戦略について、もう少し詳しく教えていただきたいんですけども、有機農業を取り組む自治体には有利な補助金制度があるんでし

ようか。

○議長（小林 弘君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）本市が高野山麓精進野菜に取り組んでいる中で、国のほうから、2050年を目標年度として持続可能な農業をめざすみどりの食料システム戦略が昨年定められたということになります。私たちとしては本市に取り組んでいる状況の中で追い風が吹いたというふうなことを意識しているところです。

有機農業の実現については、化学農薬、化成肥料削減や有機農業の実現をめざしており、有機農業の実践に取り組むぞというオーガニックビレッジ宣言を行う自治体を2025年度までに1割にするというような目標を国は考えています。この宣言を行った自治体に対して、有機農法に対する有機計画策定、施設整備や有機給食の実施にあたる食材費に充てられる補助、助成が設けられているところです。

○議長（小林 弘君）2番 垣内君。

○2番（垣内憲一君）ありがとうございます。ぜひオーガニックビレッジ宣言、橋本市も名のりを上げていただきたいと思います。

次なんですけども、橋本市においてオーガニックに取り組んでいる農家の現状について教えていただけますでしょうか。

○議長（小林 弘君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）個々、農家の方、取り組んでいただいている方については、表現が少し違うんですが、環境型農業、それからアイガモ農法、それから自然農法等の呼び名をつけながら、市内幾つかの地域ですが、十数名程度の農家の方がおられます。

○議長（小林 弘君）2番 垣内君。

○2番（垣内憲一君）ありがとうございます。

ふるさと納税の返礼品としても登録されていると思うんですが、その現状について教えてください。

○議長（小林 弘君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）旬の野菜詰め合わせセットとして、二つの事業所が計3商品登録されている状況です。昨年度では合計で81件、52万円の寄附を受け入れさせていただいたところです。

サイトへの商品登録では、有機JAS認証の確認など、一般的な農産物に比べて生産者の手間や時間もかかりますが、一定の消費ニーズがあることから、生産者の意向や各種対応が可能など条件が整えば、登録をまた拡充していきたいと、そんなふうにも考えているところです。

○議長（小林 弘君）2番 垣内君。

○2番（垣内憲一君）ありがとうございます。

今回この質問に対して経済推進部から答弁のほうをずっといただいておりますけども、教育委員会としての見解もお聞きしたいなと思いますので、よろしく願います。

○議長（小林 弘君）教育部長。

○教育部長（堀畑明秀君）議員のおただしにお答えします。

有機農法で作られた農作物を学校給食に使用することは食育の面でも大事なことで考えています。しかしながら、先ほど学校給食の状況についてご答弁いたしましたとおり、コロナ、ウクライナ危機による物価高騰の影響による食材費の高騰や、また、必要量の有機食材を確保できるかなどの課題があり、現時点では難しいですが、今後、関係部局と情報共有しながら考えていきたいと思っています。

○議長（小林 弘君）2番 垣内君。

○2番（垣内憲一君）ちょっと見ていただきたい画像があるんですけど、これ非常に見にくいんですけども、青森県で無農薬リンゴ栽培を成功された奇跡のリンゴ、木村秋則さんの1番弟子で、自然栽培の先導者でもある佐

伯康人さまからお借りしたデータなんですけども、日本と書いてあるところが日本なんやけども、左側が農薬の種類です。ほんでピンク色の部分が外国では使われていない薬品になるんです。

日本ではもう真っ白、全部使っている農薬がほかの国では使われてないというのが、こういう現状があるんですけども、これはお米で、お茶、イチゴ。本当もう日本では使われているけども、外国では使われてないというのが、こういう状態であるというのを前提でちょっとお話しさせていただきたいんですけども。

今回一般質問させていただいた3項目は全て食に関する内容でした。国もやっとなんか腰を上げたみたいで、減農薬、減化学肥料という方針を定め、有機栽培を推進し出しました。

これはなぜか。体に入った硝酸態窒素を含む化学肥料の使用が、メトヘモグロビン血症や後天性貧血を引き起こし、植物性アレルギーやがんは残留農薬や化学肥料が原因だとも言われております。

日本の商業主義は農家にも浸透し、無農薬栽培なんて変わり者のすることだという風潮が出てきました。でも、これから海外から化学肥料も農薬も材料も入ってこなくなりそうですし、例えば千葉県いすみ市や先ほどご紹介いただいた大阪府泉大津市のように有機給食に取り組む自治体も出てきていて、農業の変革期に入っていると思います。

僕は、橋本市の将来を担う子どもたちが安心して健康に過ごせるまちづくりができれば、子育て世代の人たちが橋本市に集まってくるように思います。

厚生労働省のデータで、食物アレルギーの数が年間30万人から50万人、がんの患者の数も30万人から40万人おられるそうです。例えば、橋本市に移住したら、安心安全な野菜が

食べれて、健康に暮らせる、企業団地もあり就職もしやすい。こんなまちはないと思います。

実際、橋本市で入浴施設の自然栽培の集まりにお邪魔したときに、こんな環境のいいまちないですよとおっしゃって、実際に引っ越してこられた方もおられますし、相談を受けているご家庭が2件ほどございます。

農家がいきなり無農薬野菜と言われても、どうしたらいいのか分からないと思いますが、無農薬野菜の先導者である、先ほどご紹介させていただいた佐伯康人先生を例えば橋本市に迎え、勉強会などを開きながらチャレンジしてはいかがでしょうか。

オーガニックのまち橋本、僕はもうこれ、ある意味、今がチャンスじゃないのかなというのを思っております。未来の子どもたちに誇れるようチャレンジしていただけることを今回要望して、一般質問とさせていただきます。ありがとうございました。

○議長（小林 弘君）2番 垣内君の一般質問は終わりました。

この際、2時5分まで休憩いたします。

（午後1時52分 休憩）
